

ブラジル留学中間報告書（第三回）

2019年2月

国際農業開発学科 江村藍弓

学期も終わり、約三か月の夏休みに入りました。この期間を利用して、ベレンやトメアスを始め、ブラジル国内さまざまな場所に出かけています。12月中旬は前回の報告書にも述べたように、お世話になっている研究室の博士の方の研究の手伝いで、二回目の調査に行きました。それからクリスマス友達の家で過ごしました。ブラジルではクリスマスはとても大事で、離れて住んでいる家族が戻ってきて皆で料理を食べたり、**amigo secreto** と呼ばれるプレゼント交換のようなものを行ったりします。私の友達の家では25日になる瞬間まで起きて待っていて、外に出て近所の人と **Feliz Natal!** と声を掛け合い挨拶をしていました。まるで日本のお正月のようだと思いました。年末年始には遠い親戚とサンパウロ州の山の地域へ旅行に行きました。ブラジルでは、次の年が良いものになるように年が明ける瞬間に白い服を着るという習慣があり、私も白いTシャツを着て2019年を迎えました。

年が明けてすぐ、私たちはベレンへ向かいました。ベレンでは拓殖学科卒の佐藤さんにお世話になり、佐藤さんが経営している NGO 法人アスフローラの植林地を紹介いただいたりさまざまなお話を聞かせていただきました。佐藤さんのご紹介でそのアスフローラのプロジェクトが行われているアバエテトゥーバに一泊しました。この地域は川の周りに家が建っていて、移動に船が必須でした。初めての暮らしの体験で、とても貴重でした。寝るときはハンモックで、初めて食べる果物やその油などの利用の仕方がありました。住民はとても親切で、その地域のイベントにお邪魔させてもらった時も日本人にとっても暖かく接してくれました。その地域はカトリック系のクリスチャンが多く、とても信仰は厚いようでした。

そのあとはベレンに戻って一泊してからサンタ・バルバラへ一週間の滞在をしました。その地域はかつての土地なし農民が開拓をしていった地域で、まだ13年目という新しい場所でした。苦勞のかいあってか、今は生えている果物や作物を食べて自給自足のよう暮らしをしています。当時開拓を仕切った老夫婦の娘さんは学校に通って市役所で働くための勉強をしたりと生活をよくするための努力をしているなど感じました。人々はとてもフレンドリーでとても楽しく過ごしました。窮屈なスケジュールや食べ物・水の影響か、少し体調を崩しましたが、友達がよく看病してくれたおかげで数日でだいぶよくなりました。その住民は体の不調に対しての知恵が多くあるなど感じました。その地域はジカ熱やデング熱があり、私はその症状ではなかったものの、それらに対しての知識や対策を取ることは、調査や視察に農村地域に行くうえで重要なことだと感じました。やはり気を付けるべきことは健康ですね。

その後はサンタ・バルバラを出てそのままトメアスへ行きました。私は一年半ぶりのトメアスでしたが、着いた途端に鮮明に思い出が蘇ってきました。それくらい、私には印象深か

った場所なのだと再確認しました。トメアスは全体で二週間の滞在でしたが一週間農協や文教での流通やトメアスの歴史の勉強、残りの一週間は農家さんのお宅でのファームステイでした。私は木村弘三さんのお宅と大西さんのお宅にお世話になりました。木村さんは農大で初めてのトメアス入植者で、短大農学科卒というとても貴重な方でした。現在は現役を引退されて息子のこういちさんに跡を継がれていますが、まだまだお元気でした。木村さんのお宅はコショウの栽培がメインで、その間にパッションフルーツやカカオ、クプアスなどの果樹を植えるトメアス式アグロフォレストリーを実践していました。周りにはゴムの木なども植わっていたりして、まるで一つの森が庭にあるような感覚でした。四日間の滞在后は大西さん宅に移動し実習を行いました。滞在期間が三日間だったのと、大西さんのお宅から組合などがある十字路までは 30km あるため時間がかかることから、畑での実習よりも組合で過ごす時間が多かったです。ちょうど組合（CAMTA）の定例会があったので、いまの組合の現状や組合員の葛藤などを目の当たりにしました。今は、カカオの仲間であるクプアスという果樹の値段が下がり、組合がより値段の高い種だけを受け取り実は受け取ってくれないため生産者が苦勞している状況です。そのため組合ではなく、個人販売や仲卸の業者に売ることになります。しかしこのようなことから、市場にクプアスがあふれてそのような第三者もなかなか受け取ってくれないと大西さんはおっしゃっていました。また、木村さんや大西さん、その他の日系農家さんに多く共通していることですが、最低 2、3 名の従業員を雇うことが多いです。賃金はあまり変わらないのに、モチベーションを持って作業を行う従業員とそうではない従業員の差や、仕事は多いけど雇う人数を増やすにはお金がかかるなどの問題点を解決することなど、ただ農業をするだけにはいかないパトロンの大変さを感じました。

ベレンにまた戻ったあとは農大林学科卒の山中さんにお会いしました。山中さんはベレンの中心街で園芸店を営んでおり、近くの農場や 60km 離れた農場の二つの農場で挿し木繁殖や土づくりなどの管理をしています。トメアスなどでみた農家さんの経営とは全くことなる商業的な経営で、山中さんの先を見据える戦略や少し人とは違うとびぬけた考え方にとっても感銘を受けました。たくさんの事を知っている山中さんとお話することで自分の無知さを感じ、もっと知識を増やしていかななくてはと刺激を受けました。ベレンに戻ったのは次の都市のブラジリアへ向かうためでもあったので、二回目のベレンは二日ほどの滞在でした。

次に向かったブラジリアはまるで別の国に来たと錯覚してしまうほど新鮮なものでした。1960 年にクビシェッキ大統領によりリオデジャネイロから首都を移されたこの首都は簡単に言うと未来都市です。街の形は飛行機が翼を広げた形をしており、それぞれの施設・機能がエリアごとに集中しています。運よく、友達の親戚がブラジリアに住んでいるということで案内してもらえましたが、観光地が集中しているとは言え自分たちで見て回るのは大変なのでとても恵まれていました。

その後は二週間のインターンシップをペルナンブッコ州ペトロリーナにあるニチレイの

子会社ニアグロで行いました。初めての企業でのインターンで、日本でもやったことがなかったのでいろいろなことを学ばせていただきました。二週間をかけてさまざまな部署をまわり、原料のアセロラ調達から濃縮ジュースを作るところまで見させていただきました。行く前に連絡を取らせていただいた平野さんや石山さんにも大変お世話になりました。ノルデスはサンパウロやピラシカバとは人、食べ物、気候ともに全く異なり、アマゾンやブラジリアと合わせてブラジルのさまざまな場所を見ることができてとても充実した夏休みとなりました。

残りの約半年の留学もよりよいものにしていけるよう頑張っていきたいと思います。引き続きご支援よろしく願いいたします。

↓トメアスーの農協 CAMTA の農産物販売所前にて



↓ニアグロのみなさんと

